



# 取扱説明書

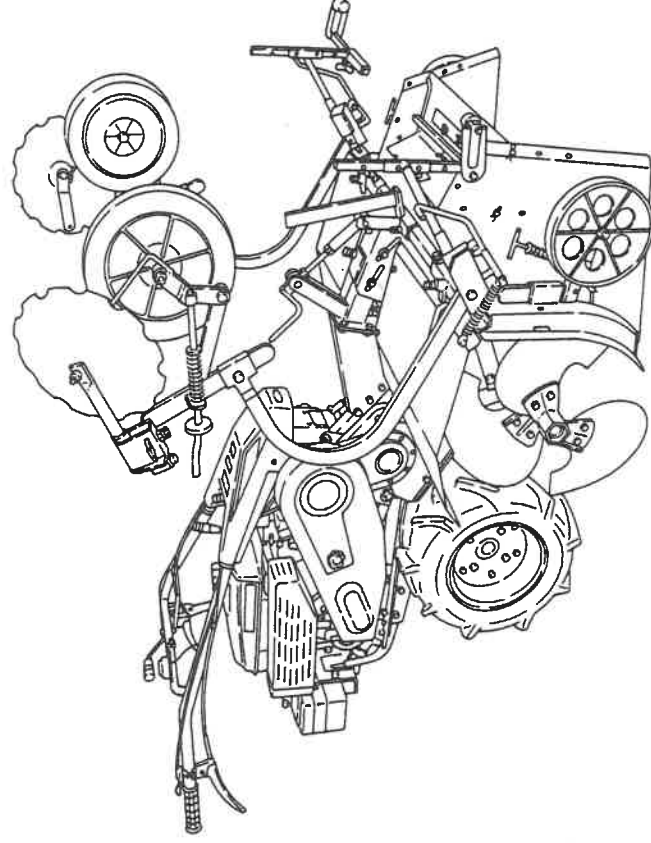
当製品を安全に、また正しくお使いいただく  
ために必ず本取扱説明書をお読みください。  
お読みになった後も必ず保存してください。



機種名

## SRV302

# マキタリターンカルチ



# マキタ農機株式会社

## はじめに

# マメトラリターンカルチをお買い上げ いただきありがとうございます。

この取扱説明書は「マメトラ リターンカルチ」の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取り扱いいただき、最良の状態でご使用ください。

お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。

製品を貸与される場合は、この説明書を添付してお渡しください。取扱説明書を紛失、汚損された場合は当社又は、当社の特約店に連絡してください。

なお、品質・性能の向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。

その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

ご不明のことやお気付きの点がございましたら、お買い上げいただきましたお近くの特約店・販売店にご相談ください。

本書に記載した注意事項や機械に貼られたの表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

### ◆注意表示について

本取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。



## 危険

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



## 警告

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



## 注意

その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

# サービスと保証について

## ☆保証書について

「保証書」はおお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

## ☆アフターサービスについて

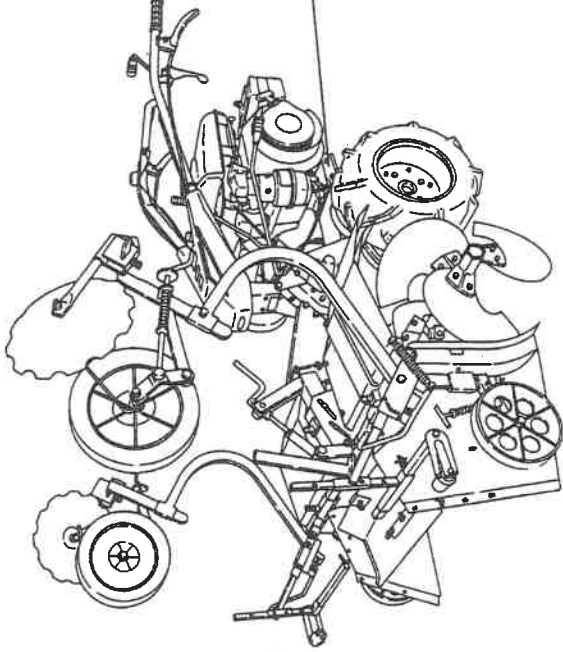
機械の調子が悪いときに点検、処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、お近くの当社営業所までご連絡ください。

### 連絡していただきたい内容

- 型式名・区分
- 機体番号・エンジンの場合エンジン番号
- 故障内容（できるだけ詳しく）

## ☆補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただきます。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、納期および価格についてご相談させていただきます。



農業機械の種類	農用トラクター（歩行型）
型式名	マメトラSRV302
区分	
エンジンの型式	GM301LN-352
機体番号	
製造・販売元 <b>マメトラ農機株式会社</b>	

## ☆取扱説明書について

本機取扱説明書を紛失、破損した場合No.M81 4985 000でご注文ください。

# 目次

はじめに	I
サービスと保証について	II
目次	1
1 安全作業のための心得	2
2 安全マーク貼付位置	6
3 各部の名称とはたらき	8
4 作業前の点検・注意	10
5 可変式「平、平高畦、かまぼこ畦、整形器、同時マルチ」の取付	11
6 操作方法	12
6-1 エンジン始動のしかた	12
6-2 発進のしかた	15
6-3 エンジン停止のしかた	16
7 変速レバーとクラッチ操作	18
7-1 チェンジレバー操作	18
7-2 主クラッチレバー操作	19
7-3 サイドクラッチレバー操作	19
7-4 ローターチェンジレバー操作	20
8 ハンドル・ロータリーカバー・前輪・ワイヤー・Vベルトの調整	21
8-1 ハンドルの調整	21
8-2 サイドクラッチワイヤーの調整	21
8-3 主クラッチワイヤーの調整	22
8-4 Vベルトの調整	22
8-5 上下調整ワイヤーの調整	23
9 運転操作上の注意	24
9-1 トラックの積込み・積降ろしのしかた	24
10 作業後の点検・整備	25
10-1 エンジンオイル	25
10-2 ミッションオイル	26
10-3 エアクリーナの手入れ	27
10-4 ストレナーの掃除のしかた	28
10-5 定期点検一覧表	28
11 長期間使用しないときの格納のしかた	29
11-1 格納のしかた	29
12 不具合と対策方法	30
13 仕様	32
14 付属工具明細表	33
15 消耗部品一覧表	34

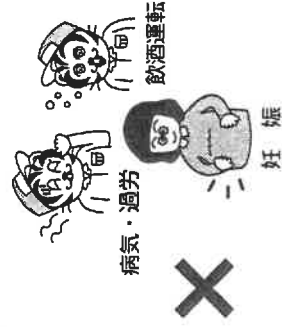
# 1 安全作業のための心得

## ■本機を使用するにあたって

### 使用する人の条件

次のような項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき
- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な運転ができないとき
- 妊娠しているとき
- 子供の方
- 取扱方法を熟知していない人



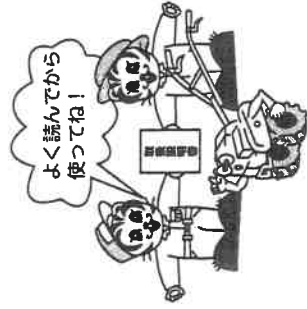
### 使用する人の服装

機械に巻き込まれる事故を予防するため、はち巻き・首巻き・腰タオルをしないでください。また、滑って転倒する事故を防止するため、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した、だぶつきの無い服装をしてください。



### 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。



### 機械の改造厳禁

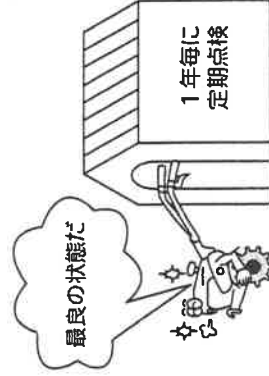
機械の改造や指定以外のアタッチメントを取付けないでください。また、機械を改造しないでください。



## ■点検整備をしてください

### 1年毎に定期点検整備を

機械の整備不良による不具合や事故を予防するために、1年毎に定期点検・整備を受け各部の保守をしてください。特に燃料パイプや電気配線は、2年毎に交換して、機械が最良の状態で、安全に作業ができるようにしましょう。



### 点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備をおこなってください。特に、クラッチ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備してください。



## ■点検整備をしてください

### 点検・整備掃除をするときは

点検・整備、またはアタッチメントの脱着・掃除をするときは、整備の危険がなく、機械が転倒したり動いたりしない平坦で安定した場所を選び、エンジンを止めてください。また、誤ってエンジンが始動することのないよう燃料コックを閉にし、完全な停止状態で過熱部分が十分に冷めていることを確認してからおこなってください。



### 排気ガスには十分に注意

屋内などでエンジンを始動する場合、排気ガスによる中毒恐れがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所でおこなうようにし、十分に換気をおこなってください。



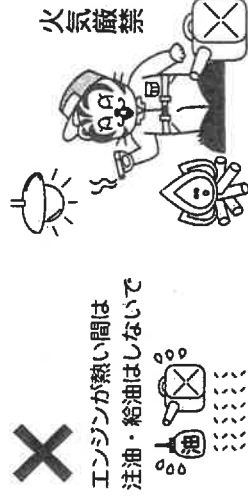
### カバー類は必ず取付け

ベルトカバーなどの防護装置を取外す場合は、必ずエンジンを止め、完全な停止状態を確認してからおこなってください。また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。



### 給油・注油するときは

エンジン回転中やエンジンが熱い間は、火傷や火災の危険がありますので絶対に給油・注油をしないでください。また、給油中はタバコや裸火照明などの火気は厳禁です。



### 長期格納するときは

火災などを予防すると共に、燃料の変質による不具合を防止するために、燃料タンク・気化器内の燃料を抜き出し、バッテリーを取外して保管してください。



### 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

### エンジンの始動や発進するときには

クラッチを〔切〕り、変速レバーを〔止〕位置にし周囲の人に合図してからエンジンを始動してください。周囲の人に危害を加えたり転倒や衝突したりしないように周囲の安全を確かめ、急発進しないように徐々に発進してください。

# 1 安全作業のための心得

## ■作業・移動をするとき

二人以上で作業するときには

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどとして、安全を確かめ合いながら作業してください。

ベルトを交換したり、爪を交換するときや、巻き付いた草などを取除くときは

必ずエンジンを止めてからおこなってください。

エンジンを止めてから！

×



ロータリ作業や車軸作業では機械の飛び出し（ダッキング）に注意

ロータリ作業や車軸作業中、地面が固かったり石を噛んだ場合、またはロータリを急激に地面に降ろしたりすると、回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛び出す（ダッキング）ことがありますので十分に注意してください。

特に、川や崖、人のいる方向に飛び出す（ダッキング）と、転落や人身事故を招く恐れがあります。

ウア〜 危ない!



回転している爪には十分気をつけて

回転する爪に巻き込まれると重傷を負うことがあります。特にロータ作業では、ロータ部を上げて旋回するので足元には十分に気をつけてください。

足元に注意!!

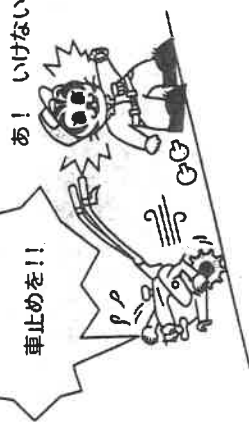


イテテッ...

機械から離れるときには

機械から離れるときには、平坦で安定した場所におき、エンジンを止め、各部が完全な停止状態になっていることを確認してください。やむを得ず傾斜地に置くときは、必ず車止めをしてください。

車止めを!!



あ! いけない

ハンドルを逆向きにするときは

操向クラッチレバーの左右を切り替えないと、思わぬ方向に旋回して大変危険です。必ず操向クラッチレバーの切り替えをし、確実に作動することを確認してください。

操向クラッチのレバーは切り替えた?



後進しながら作業するときは

転倒しないように足元に十分に注意し、後方に障害物がないかを確認して後方の障害物と本機との間に挟まれないようにしてください。特に、ハウス内では、壁や支柱との間に挟まれたりすることの無いようにしてください。

ロータ部が作業者の直前に来るような後退作業は危険です。ハンドルを180°回転して作業をしてください。

後進作業は足元に注意して!



## ■作業・移動をするとき

移動するときは

坂道・凸凹の激しい道・曲がり角・そばに溝がある道・路肩の弱い道などでは、スピードを落とし、最も安全に通行できる場所を選んで通ってください。

また、焚き火や排ワラを燃やしている近くは走行しないでください。事故や火災の原因となります。



急な発進・停止・旋回、スピードの出しすぎ禁止

スピードを出しすぎたり、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけではなく、機械の寿命も縮めますのでおこなわないでください。



わき見運転・片手運転禁止

ハンドルやクラッチは正しく操作し、わき見や片手の運転はしないでください。



坂道では

坂道では、操向クラッチレバーを操作すると、機械が思わぬ方向に旋回してしまうことがありますので、操向クラッチレバーを使わないでハンドルを振って方向転換をしてください。



溝や畦を横断したり、軟弱な場所を通るときには

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あり、表面がすべらないように処理してあるアユミ板をかけ、最低速度で操向クラッチレバーを使わずに通ってください。

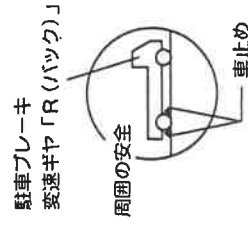
もし、落ち込んだ場合には、無理に脱出しようせず、先ず状況を判断して適切な処置を巧じてください。



トラックなどに積込み・積降しするときは

平坦で交通の安全な場所で、トラックなどが移動しないようにエンジン止め、サイドブレーキをかけ車止めをし、幅・長さ・強度が十分あり、表面がすべらないように処理してあるアユミ板をかけ、最低速度で操向クラッチレバーを使わずにおこなってください。

また、登るときには前進、降りるときには後進でおこなってください。さらに、積込んだときには、本機に車止めをし、十分に強度のあるロープでトラックに確実に固定してください。





## 2 安全マーク貼付位置

警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

### 耕うん・管理機 + 安全五憲章

1. 逆路走行・圃場の出入り・車への積降ろしときは必ずロータリの回転を止めます。
2. 農路を走行するときは、スピードを落とし路肩に注意します。
3. 圃場の出入り・車への積降ろしは上りは前進、下りは後進で行います。
4. バックをするときはスピードをゆるめ背後の障害物に注意します。
5. 機体の点検・調整・整備は必ずエンジンを止めてから行います。この機構をお使いになるときは復讐してください。

8MA 0009 000

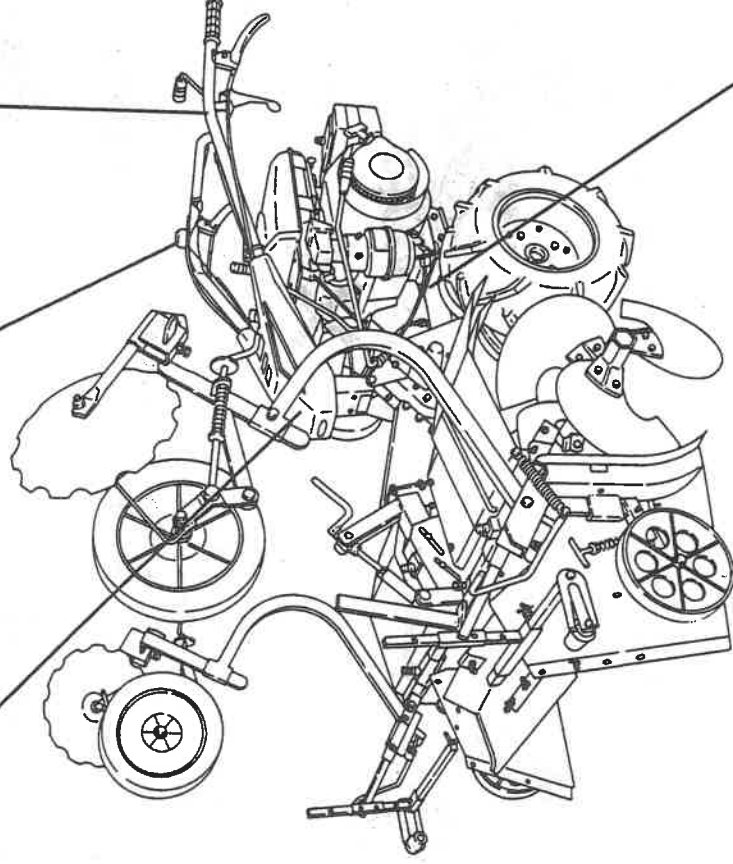
### 注意

エンジンを始動する時は主クラッチレバーを必ず「切」にすること。

8MA 0007 000

### ワンタッチ 停止ボタン

8MA 0149 000



農業機械の種類	農用トラクター (歩行型)
型式名	マメトラSRV302
区分	
エンジンの型式	GM301LN-352
機体番号	

製造・販売元 **マメトラ農機株式会社**

8MA 3025 000

**注意**  
KW56110AA

マフラー高温注意  
さわるとやけどを  
するおそれがあり  
ます。

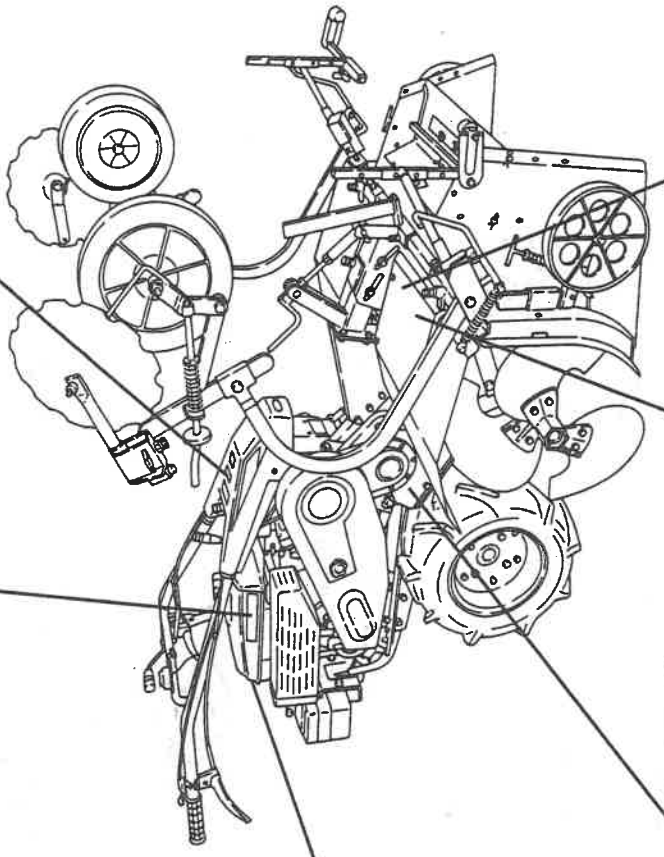
**警告**

排ガスに注意  
室内や換気の悪い  
所での運転は人体  
に有害で危険です。

KW56110AA

安全作業のために  
点検、調整時は必ず  
原動機を停止してから  
行ってください。

M86 0717 000



**危険**  
火気  
厳禁

● 給油時は必ずエンジンを停止して下さい。  
● 給油口に火を近づけると火災の危険があります。KW56069AA

● 蒸気ガソリン  
KW56069AA

**注意**

バルトの調整は必ずエンジン停止  
エンジン下側バルトを緩めて調整します。  
張り過ぎるとクラッチが効れなく成り大  
変危険です。(下図参照) チェンジを  
(止)にしてエンジン始動。主クラッチ切の  
状態で本機プーリが停止しているか確認。  
エンジンプーリ  
55~65mm  
スキマ3~5mm  
スキマ3~4mm  
エンジンプーリ  
クラッチプーリ

8MA 0006 000

**注意** (押入れ・ダッキング)

特に狭い場所や石のある場所ではロータリーの回転力で  
機体が後方に押戻されることがあります。  
1. チェンジレバーを(低)に入れてハンドルはしずかにな  
げて下さい。前輪は一度に上げ過ぎないように。  
2. バック作業時は後方に注意。  
いつでも停止出来るように心掛けて  
作業して下さい。

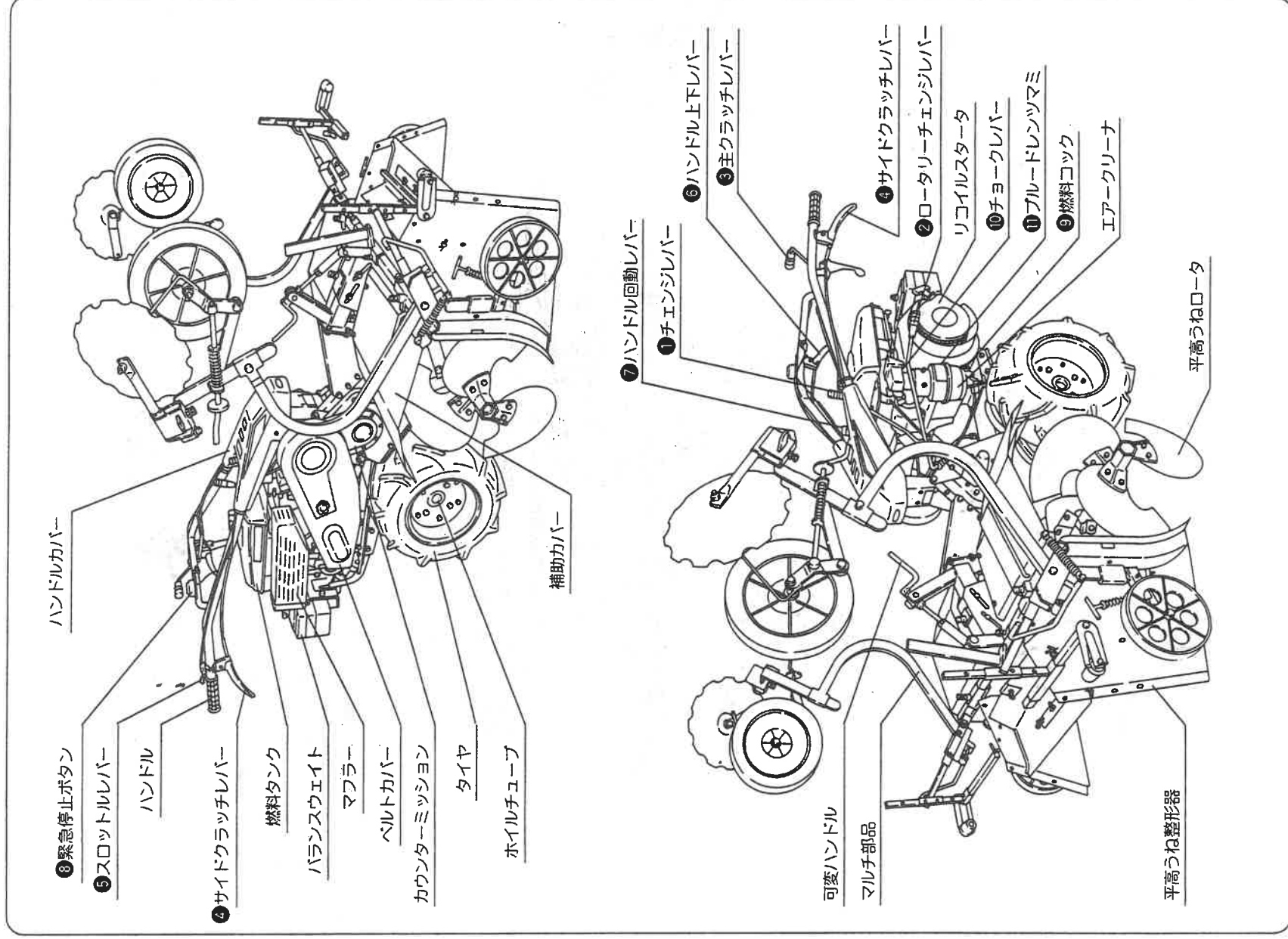
8MA 0008 000

**警告**

ロータリーの回転部に接触  
すると、ケガをする恐れ  
があるので、回転部に近  
づかないこと。

8MA 0154 000

### 3 各部の名称とはたらき



### ① チェンジレバー

作業内容に合わせて速度を設定します。  
(前進2段、後進2段)

### ② ロータリーチェンジレバー

作業内容に合わせて、ロータリー回転(低・中・高)を設定します。

### ③ 主クラッチレバー

前方に倒すとクラッチが「入」となり手前に引くと「切」となります。

### ④ サイドクラッチレバー

旋回したい方向のサイドクラッチレバー握りますと方向変換が出来ます。

### ⑤ スロットルレバー

エンジン回転の上げ、下げに使用します。  
(低←→中←→高)

### ⑥ ハンドル上下レバー

レバーを握りますとハンドルの上下の高さを調整出来ます。(6段階)

### ⑦ ハンドル回転レバー

レバーを下方に押し下げますとハンドルは左右に移動します。(左右各15°～19°)

### ⑧ 緊急停止ボタン

緊急停止ボタンを押しますとエンジンが停止します。

### ⑨ 燃料コック

エンジン始動時に使用します。

- エンジン始動時→開
- エンジン停止後→閉

### ⑩ チョークレバー

エンジン始動時に使用します。(開←→閉)

### ⑪ ブレードレンツマミ

格納時(長期間)にエンジンのキャブレター内の燃料がツマミを引くと抜き取れます。

## 4 作業前の点検・注意

作業前には必ず次の点検をおこなってください。



★燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明に絶対にしないでください。  
火災を起こす危険があります。



★点検・整備をおこなうときは、必ずエンジンを停止させ、過熱部分が冷めてからおこなってください。  
★エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。火傷や火災のおそれがあります。  
★燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。

- エンジンオイルは入っておりません。（入れる際は、30頁を参照してください。）
- ミッションオイル、燃料の点検・補給をおこなってください。
- 各作動部へ注油をし、各部が正しく作動することを確認してください。
- エアクリーナにオイルが規定量入っているか確認してください。
- 主クラッチレバー、スロットルレバー等が正しく作動することを確認してください。
- エンジン、ミッション等から油もれがないか点検してください。
- 各部のボルト、ナット類のゆるみ、脱落の有無を点検し、10～20時間で各部の増締めをしてください。
- チェーンレバー、ロータリーチェーンレバー等が正しく作動することを確認してください。

## 5 可変式「平、平高畦、かまぼこ畦、整形器、同時マルチ」の取付

可変式整形器を取付の際は、ミッション中央部の取付ボルト (M10×60L) 3本を緩めてロータリーフレームAを取付けてください。  
次に、ミッションケース下部の取付ボルト (M8×20L) を緩めて補強ステーを取付けてください。各々のボルト、ナットは確実に締付けてください。

### ● 整形器

ハイローター ハイマルの取付方法、調整方法は別紙の取扱説明書を参照してください。

### ● 可変ハンドルの調整

整形器の大きさ、高さに合わせて、可変ハンドルを廻してください。  
ハンドルを反時計 (浅い) 方向に廻すと畦高さが低くなり、時計 (深い) 方向に廻すと、畦高さが高くなります。  
作業初めの際は、浅い方から順次深い方になる様にしてください。  
最初から深くしますと機械がダッシングをして危険ですから注意してください。  
調整後は、金具上部の固定ボルトで金具を固定してください。

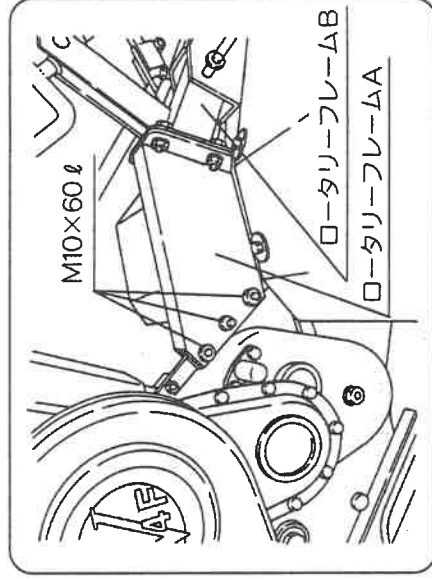


図1

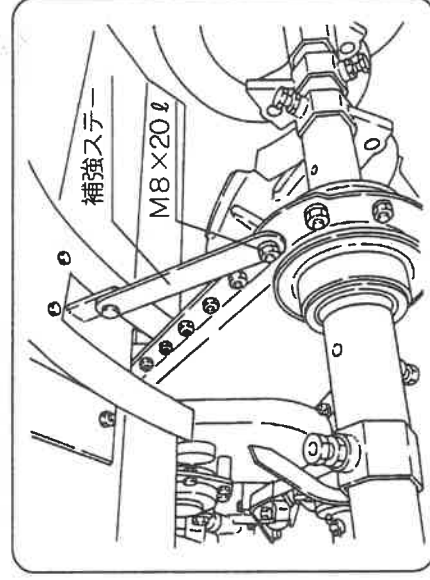


図2

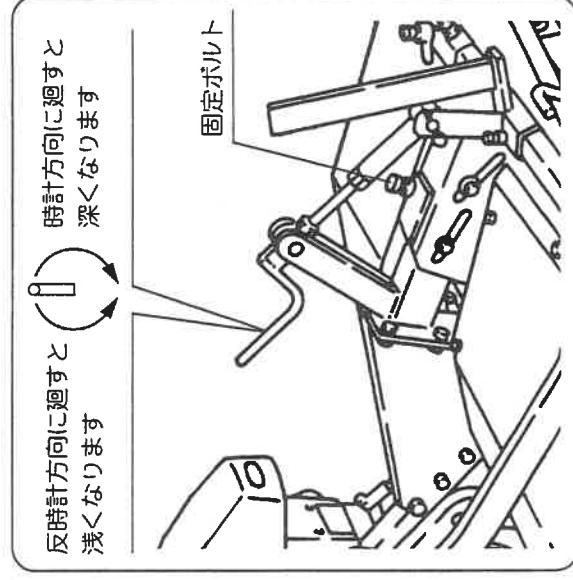



図3

 <p><b>注意</b></p>	<p>可変式整形器の取付金具は2種類です。</p> <p>①ロータリーフレームA (金色) A3B用、A3B-KT用</p> <p>②ロータリーフレームB (シルバー色) B3B用、EB用、FB用</p>
--	--

# 6 操作方法



**警告**

- ★エンジンをかけるときや作業中は、他の人を本機に近づけないようにしてください。
- ★エンジンをかけるときは、本機の周りに物を置かないでください。接触した物を飛ばす恐れがあります。
- ★エンジンが停止しても、エンジンやマフラーなどの過熱部分には、すぐに手を触れないでください。火傷をします。

## 6-1 エンジン始動のしかた



**警告**

- ★エンジン始動時には、各レバーの位置と周囲の安全を確認してください。
- ★エンジンの暖機運転は、閉めきった室内ではおこなわないでください。排気ガス中毒の原因になります。

- ① チェンジレバーを「N」の位置にします。(図1)

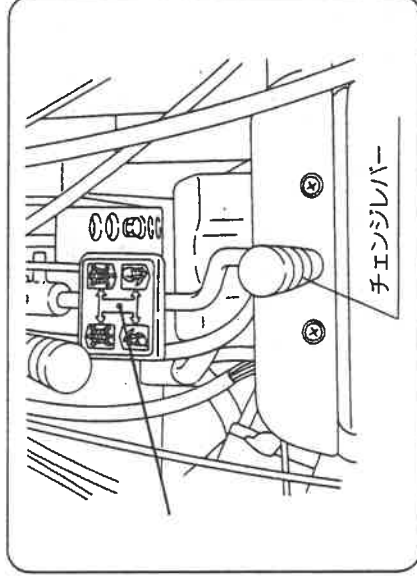


図1

- ② ロータリーチェンジレバーを「止」の位置にします。(図2)

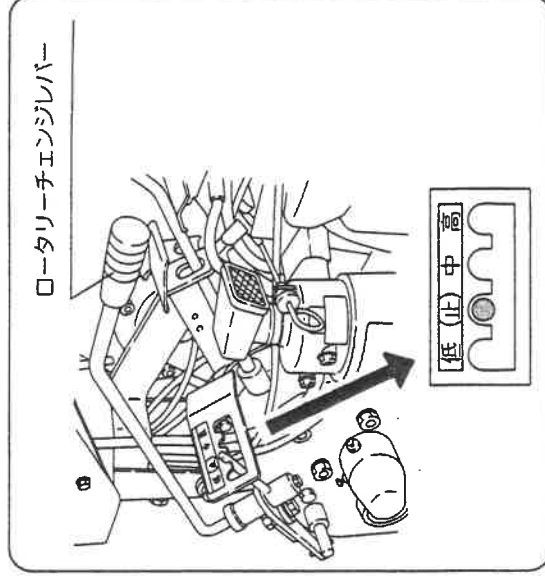


図2

## 6 操作方法

- ③ 主クラッチレバーを「切」の位置にします。  
(図3)

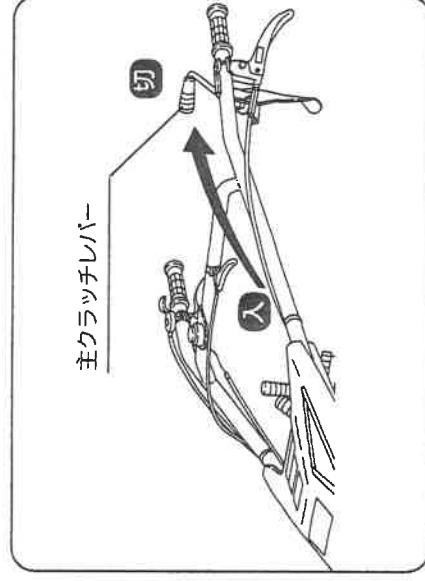


図3

- ④ 燃料コックを「開」にします。(図4)

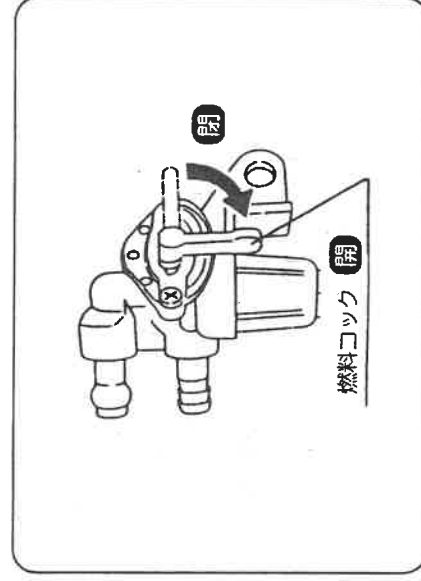


図4

- ⑤ スロットルレバーを「中間」の位置にします。(図5)
- エンジンが始動しましたら、スロットルレバーを「低」の位置にもどしてください。

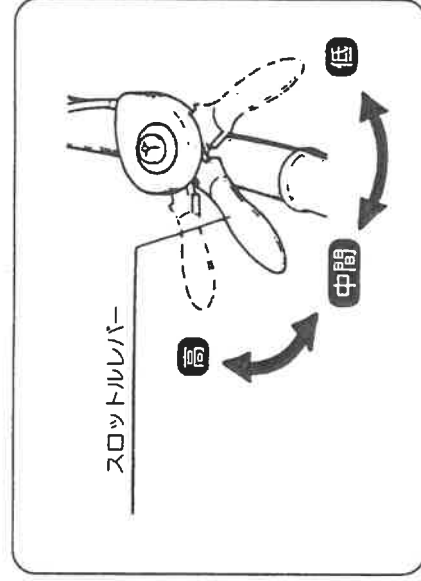


図5



⑥ チョークレバーを「閉」の位置にします。  
(図6)

- エンジンが暖まっている場合は「開」の位置で始動します。

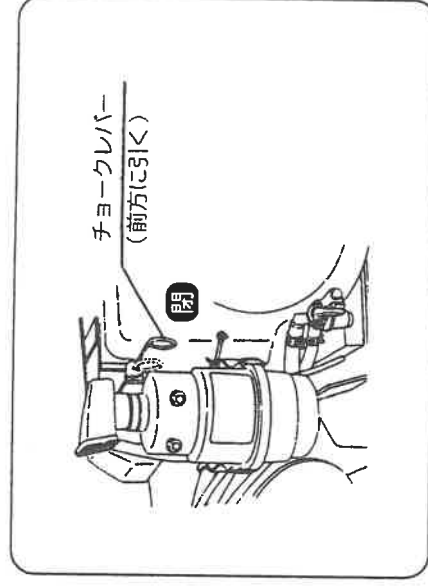


図6

⑦ リコイルスタータを引張りエンジンが始動したらチョークレバーを「開」の位置にしてください。

- リコイルスタータを3回以上引張っても始動しない時は燃料の吸いすぎになり、すのでチョークレバーを「開」の位置にしてから再度リコイルスタータを引張ってください。(図7)

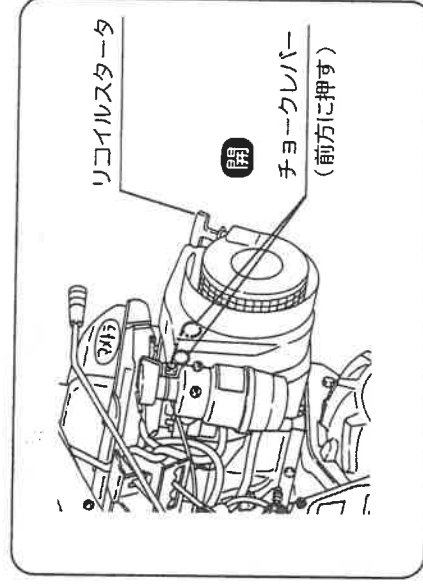


図7

# 6 操作方法

## 6-2 発進のしかた

① チェンジレバーを進行方向の位置にしてください。(図8)

☆前進

- 低速→亀(前向)
- 高速→うさぎ(前向)

☆後進

- 低速→亀(後向)
- 高速→うさぎ(後向)

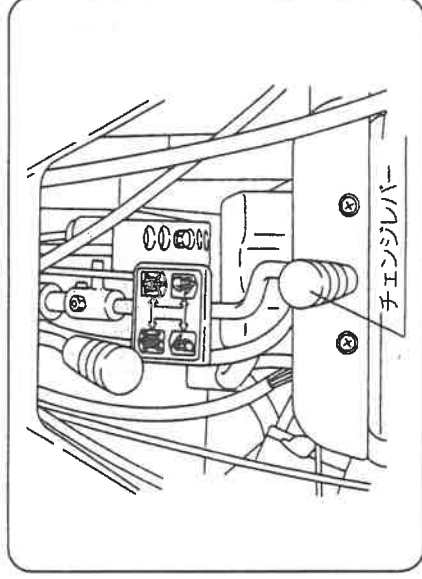


図8

② スロットルレバーをゆっくり「低→高」の位置にします。(図9)

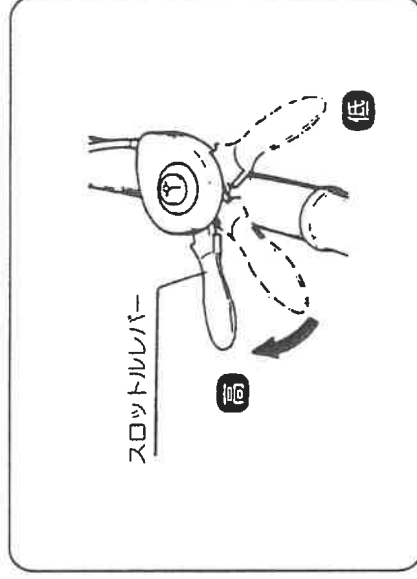


図9

③ 主クラッチレバーをゆっくり前方に押してください。(図10)

- 発進するときは、スロットルレバーが「高」の位置では急発進となりますので発進後に「高」の位置にしてください。
- 発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。

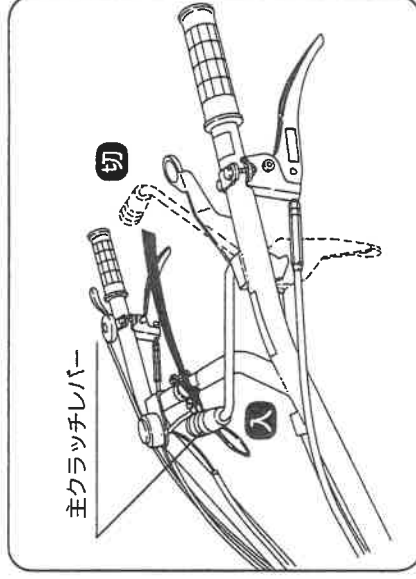


図10

## 6-3 エンジン停止のしかた



### 注意

- ★エンジン停止後は、しばらくマフラーが熱くなっていますから、手を触れないでください。
- ★ESS（自己復帰停止装置）が付いていますので、再始動するときは5秒以上してから始動してください。

- 1 主クラッチレバーを「切」にします。  
(図11)

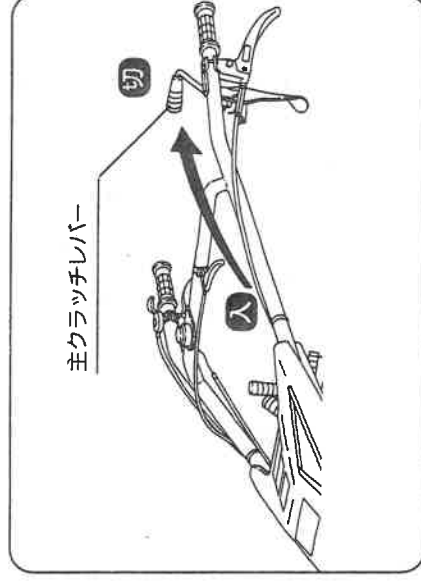


図11

- 2 スロットルレバーを「低」の位置にします。  
(図12)

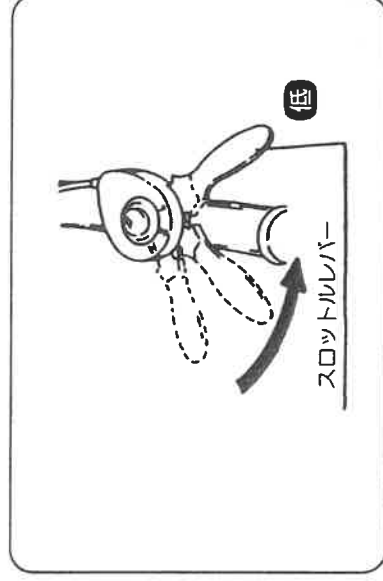


図12

- 3 ローターチェンジレバーを「止」の位置にします。(図13)

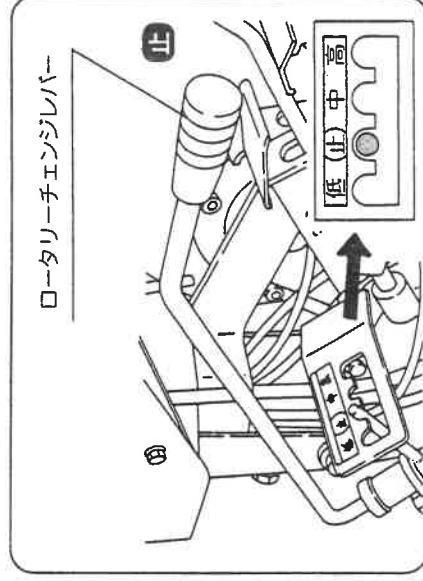


図13

## 6 操作方法

④ 緊急停止ボタンを押してください。エンジンが停止します。(図14)

- ESS (自動復帰装置) がついていてからで再始動するときは5秒以上してから始動してください。;

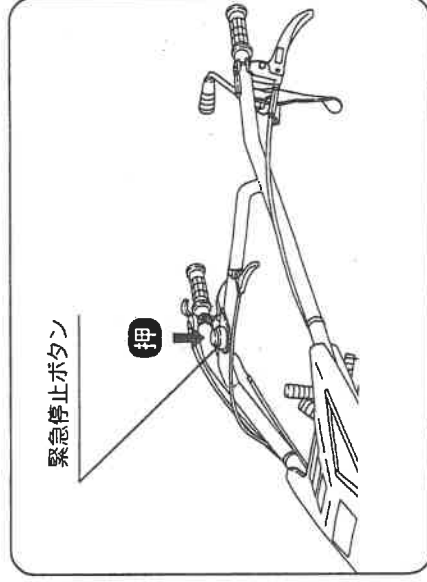


図14

⑤ 燃料コックを「閉」の位置にします。(図15)

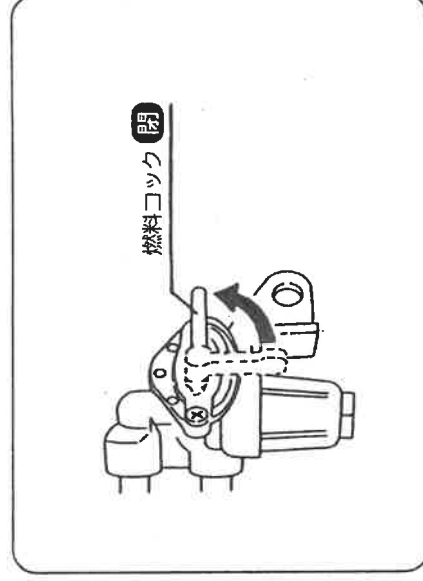


図15

# 7 変速レバーとクラッチ操作

## 7-1 チェンジレバー操作

① 低速の「前進後進」(低速)のチェンジの切換は主クラッチを切らなくても切換操作が出来ます。(図16)

- 機械の操作になれるまでは、前進後進の切換操作は主クラッチを一旦切ってからおこなってください。

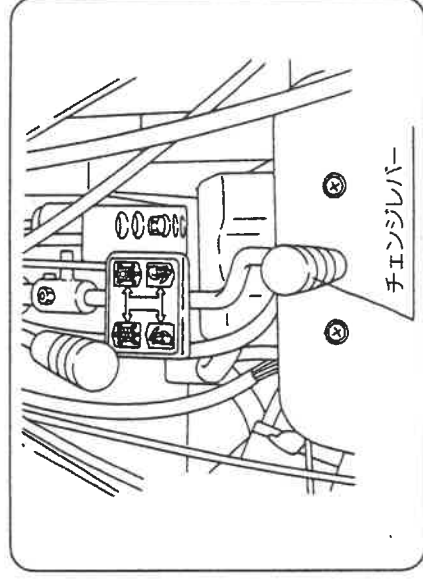


図16

② 低速から高速に切換操作は主クラッチを一旦切ってからおこなってください。(図17)

- スロットルレバーを「低」の位置にもどしてください。

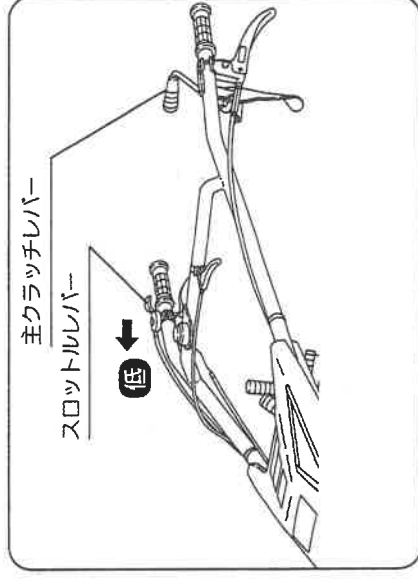


図17

③ 高速の「前進後進」の切換操作は主クラッチを一旦切ってからおこなってください。(図18)

- 高速でのバック作業は充分注意してください。

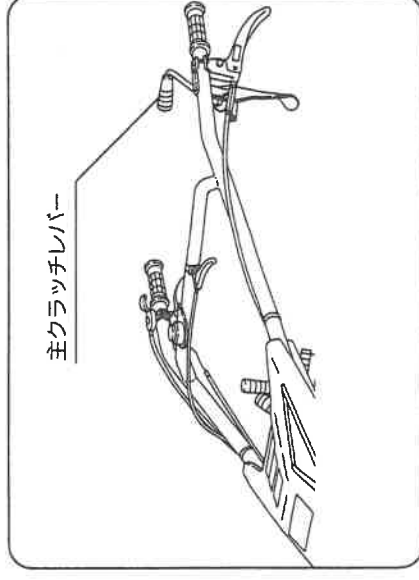


図18

# 7 変速レバーとクラッチ操作

## 7-2 ローターエンジンレバー操作

- ① ハンドル上下レバーを握りハンドルを上にあげてから操作してください。(図19)
  - 半クラッチ操作でおこなうと簡単に入ります。

### ② ローター回転と適応作業

ローター回転数	適応作業
187rpm	耕耘、ラセン、マルチ作業
310rpm	中耕作業、マルチ作業
517rpm	溝掘り作業

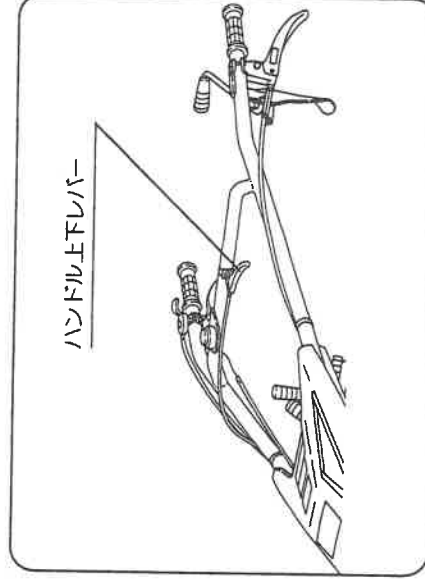


図19

## 7-3 主クラッチレバー操作

- ① 主クラッチレバーを前に押しとクラッチが入り手前に引くとクラッチが切れます。(図20)  
指クラッチ方式ですのでクラッチを切る時は「切」マークの位置を指で押しても切れません。

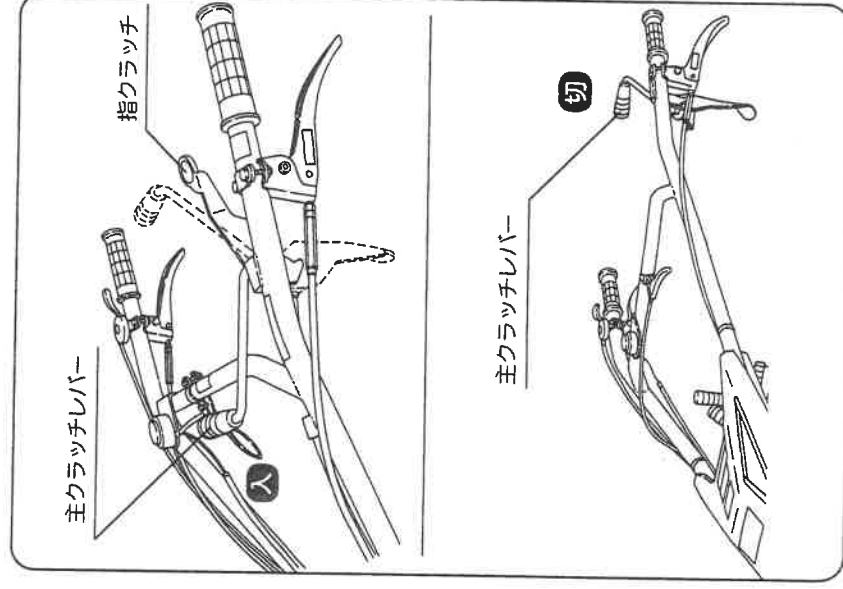


図20

## 7-4 サイドクラッチレバー操作

① レバーを握るとサイドクラッチが切れ、放すとクラッチが入ります。(図21)

- 旋回したい方向のレバーを握りますと方向変換が出来ます。

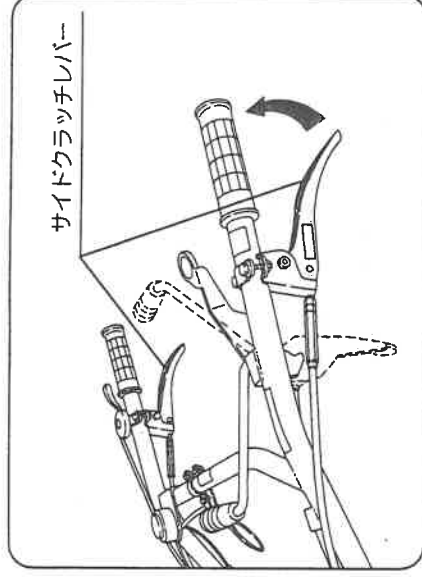


図21

## 8 ハンドル・ローター・カバー・前輪・ワイヤー・Vベルトの調整

### 8-1 ハンドルの調整

- ① ハンドル左右の調整は、ハンドル回転レバーを下方向に押し、ハンドルを少し持ち上げると楽に動く。左右方向に移動してください。(図22)

- 左右2段階  $0^\circ \rightarrow 15^\circ \rightarrow 19^\circ$  に調整可能です。

- ② ハンドル上下調節レバーを握りますとハンドルの高さを作業及び身長に合った位置でご利用ください。

- 上下高さ6段階 (各  $5^\circ$ ) 調整可能です。

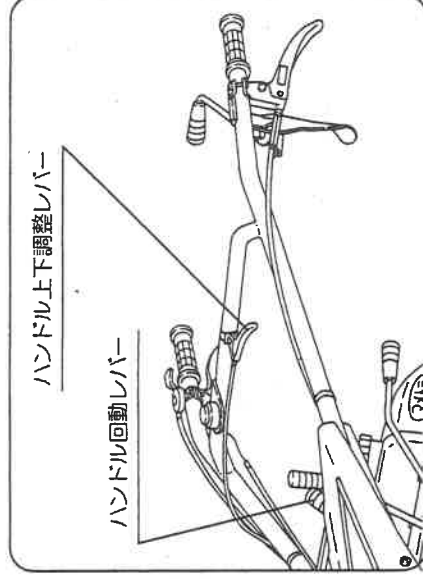


図22

### 8-2 サイドクラッチワイヤーの調整

サイドクラッチワイヤーが伸びますと、クラッチが切れなくなり、旋回したい方のクラッチを握っても旋回できなくなります。(図25)

- ① ロックナットをゆるめます。
- ② 調節ナットを廻し、サイドクラッチレバーの遊びが  $1 \sim 2$  mm になる様に調節し、ロックナットを締めつけてください。

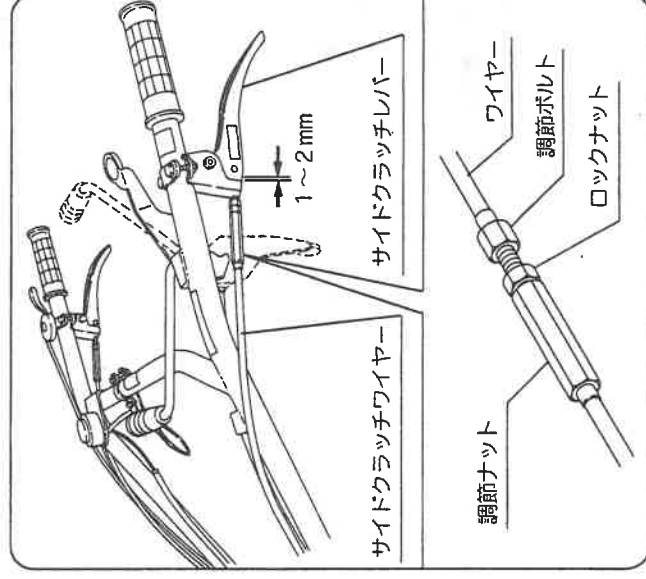


図25



## 8 ハンドル・ローター・カバー・前輪・ワイヤー・Vベルトの調整

### 8-3 主クラッチワイヤーの調整



#### 注意

- ★ベルト調整をおこなう場合は、必ずエンジンを停止しておこなってください。  
調整が終わったら必ずベルトカバーを取付けてください。
- ★エンジンを始動する前に、主変速レバーを「止」位置にしてください。
- ★エンジンが回っているときは、危険ですので付近に近寄らないでください。

#### ●主クラッチワイヤーの調節 (図26)

主クラッチレバーを入れた状態でベルトの中央部を指で押さえて10～15mmたわむ程度に調節ネジでテンションプーリーを調節してください。なお、使用初期はベルトが伸びやすいため、10時間使用後ワイヤーを再調節してください。

ベルトがスリップする	調節金具のA部を [長] くする。
主クラッチレバーが重すぎる場合	調節金具のA部を [短] くする。

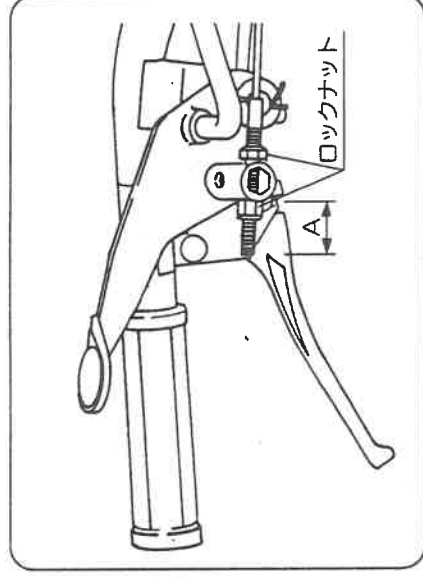


図26

### 8-4 Vベルトの調整

V ベルトが伸びますとテンションの張りが弱くなりベルトがスリップし走行及びロータリー作業が出来なくなります。

- ① エンジンの取付ボルト (4本)、ベルトカバー裏板取付ボルト (1本) をゆるめてください。(図27)
- ② Vベルトの張りを調整しながらエンジン位置を後方に下げてください。
- ③ ベルト押え上下を調整してください。
  - Vベルトの調整が不可の場合は新しいベルトと交換してください。
  - VベルトLB-45吋 2本

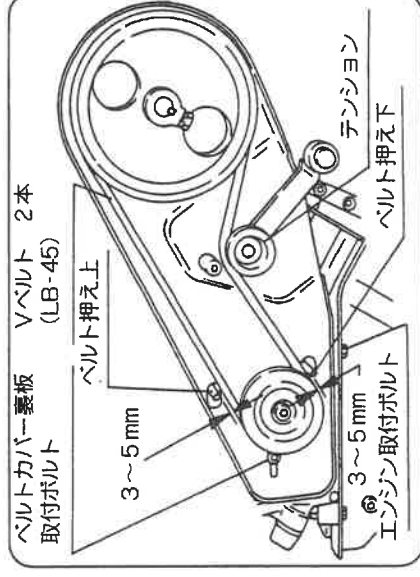


図27

## 8-5 上下調整ワイヤーの調整

上下調整ワイヤーが伸びますとハンドルの上下移動の切換が出来なくなります。

- ① ロックナットをゆるめます。(図28)
- ② 調節ナットを回してハンドルの上下が移動出来るように調整して、ロックナットを締めつけます。(図28)

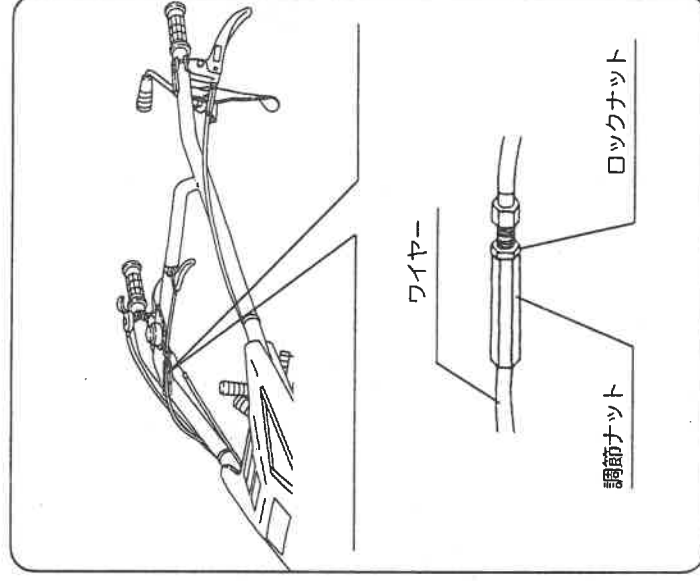


図28

## 9 運転操作上の注意



警告

- ★発進するときは周囲の安全を確かめてから発進してください。
- ★急発進は危険です。絶対にしないでください。
- ★高速での急旋回は危険です。絶対にしないでください。

### 9-1 トラックの積込み・積降ろしのしかた (図32)



警告

- ★積込み・積降ろしの場合は、平坦で安定した場所を選んでください。
- ★本機の直前には、立たないようにしてください。機体が不意に動いたときに危険です。
- ★あゆみ板の上では、絶対に主クラッチレバーを「切」にしないでください。また、サイドクラッチレバーを操作しないでください。転倒・転落の恐れがあります。
- ★本機があゆみ板とトラック等の継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので、十分に注意してください。
- ★トラックなどに積んで移動するときは、十分強度のあるロープを使用し、確実に固定してください。さらに車止めをしてください。

① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選びます。

② 基準にあったあゆみ板を用意します。

③ あゆみ板のフックを、荷台の段差のないよう確実に掛けてください。

④ 左右タイヤがあゆみ板の中央に位置するよう、本機をセットしてから積込み、積降ろしをおこなってください。

⑤ 積込みの場合は、前進1「低速」で、積降ろしの場合は、後進でゆっくりおこなってください。

#### 〈あゆみ板の基準〉

あゆみ板は基準に合った、十分な強度のあるものをご使用ください。

- ★長さ…車の荷台高さの3.5倍以上。
- ★幅…本機の車輪幅に合ったもの。
- ★強度…本機の重量に十分耐えられるもの。
- ★表面…すべらないように処理してあるもの。

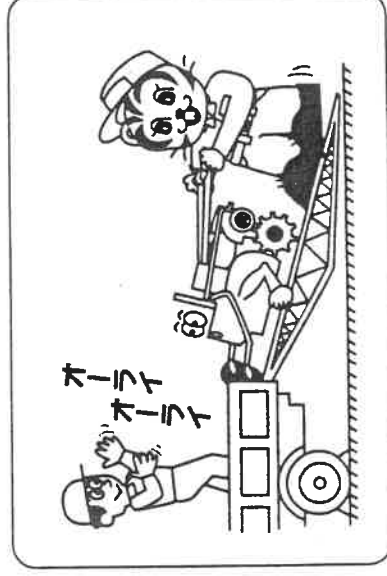


図32

# 10 作業後の点検・整備

## 各部オイルの点検・交換のしかた

古くなったオイルは機械の性能を落とすことだけではなく、故障の原因にもなります。定期的にごいオイルを抜き取り、新しいオイルを規定量給油してください。



### 注意

- ★点検をするときは、エンジンを必ず水平にしておこなってください。
- ★排出されるオイルで火傷をしないように注意してください。

## 10-1 エンジンオイル (図33)

### 〔点 検〕

- ① 給油口の蓋を外して、ゲージ先端をきれいに拭きます。
- ② ねじ込まないで差込みます。
- ③ 再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。

### 〔交 換〕

- ① エンジンクランク室の給油口のオイルゲージを取出してください。
- ② ドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出してください。
  - オイルの受皿 (2.0ℓ以上) をオイルの出口の下に置いてください。
  - 汚れたオイルが完全に無くなったらドレンプラグを確実に締め付けてください。
- ③ 給油は、給油口より検油ゲージの規定量まで入れてください。

夏 期	……SAE-30, SAE-10W-30
	SAE10W-40
冬 季	……SAE-20, SAE-10W-30
規定量	……1.2ℓ
- ④ オイルゲージを確実に締め付けてください。

※エンジンが暖かい内に抜くと、容易に抜くことができず。

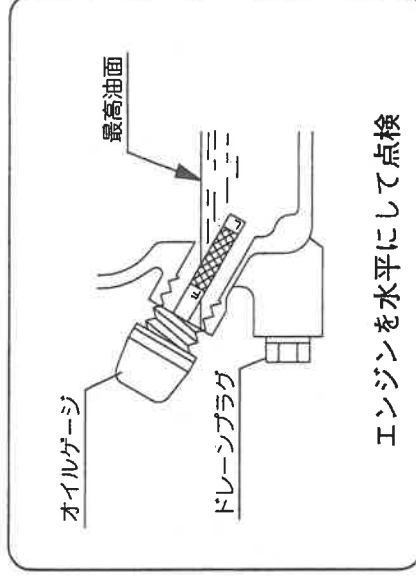


図33

## 10-2 ミッションオイル

### 〔点検〕

- ① 油もれのないことを調べてください。

### 〔交換〕

- ① 注油栓を取外してください。(図34)
- ② ミッションケース下部にある排油口ボルトを取外して汚れたオイルを流し出してください。(図35)
  - オイルの受皿(3.0ℓ以上)をオイルの出口の下に置いてください。
  - 汚れたオイルが完全に無くなったら排油口ボルトを確実に締め付けてください。

- ③ 給油口からミッションオイルをゆっくりに油してください。(図34)

ミッションオイル…SAE90番  
規定量……………3.0ℓ

※ミッションが暖かい内に抜くと、容易に抜くことができます。

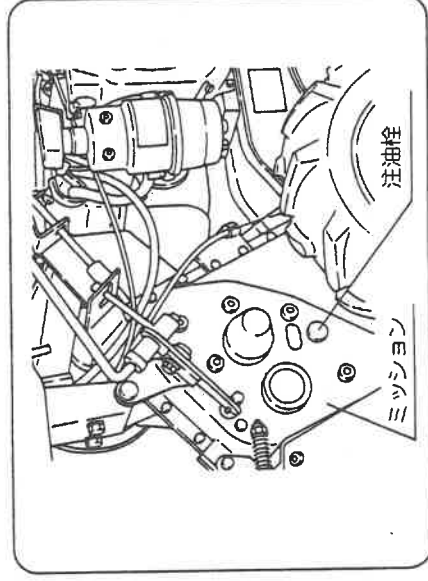


図34

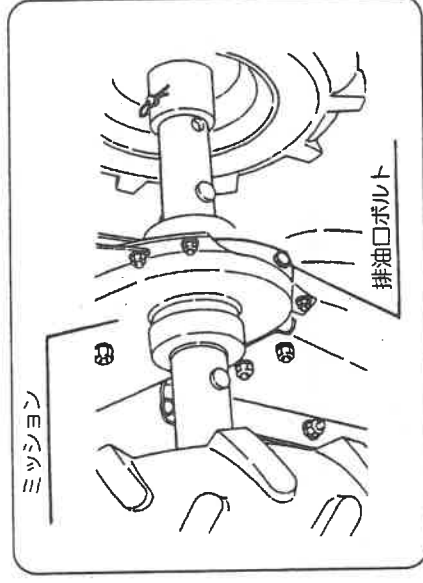


図35

## 10-3 エアクリリーナの手入れ



### 注意

- ★エアクリリーナエレメントやエアクリリーナのオイルが汚れていたり、またオイルが少なくありませんか。
- ★エレメントが汚れたまま使用すると、エンジンの出力低下や故障の原因になります。
- ★エアクリリーナの吸込口は、ホコリの少ない方向に向けてください。

① グリップを外し、オイルパンおよびエレメントを取外してください。(図36)

② オイルが不足しているときは、オイルレベルまで補充してください。汚れがひどいときにはオイルパン・エレメント共、白灯油で洗浄しエレメントはエンジンオイルに浸し滴下しない程度に振り切ってください。(図37)

③ オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイル(SC級以上)をレベルまで入れてください。(図37)

④ エアクリリーナの吸込み口をホコリの少ない方向(ハンドル側)に向けてください。(図36)

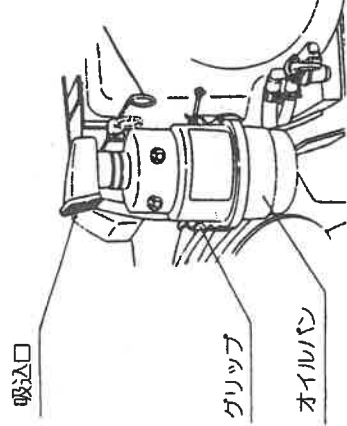


図36

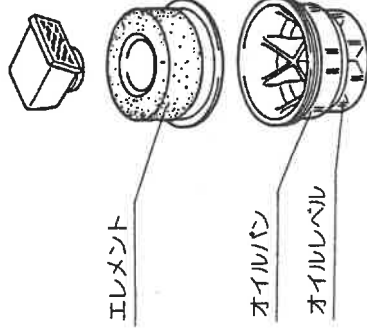


図37

## 10-4 ストレーナの掃除のしかた

- ① 燃料の中に混入した水やゴミがストレーナに沈澱しますので、ストレーナを外してゴミや水を抜き取ってください。なお、水やゴミの混入が多い場合は、燃料を抜き取り、新しい燃料に交換してください。

※ストレーナのみを掃除するときは、燃料コックを「閉」位置にしてください。(図38)

※燃料コックが「開」位置になったままですトレーナを外すと、燃料タンク内の燃料が排出しますので必ず「閉」位置にしてください。

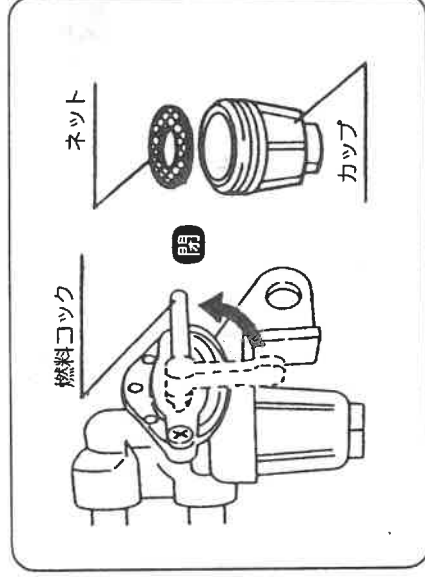


図38

## 10-5 定期点検一覧表

安全のため、そして故障を未然に防ぐために、機械を定期的に点検する必要があります。一般的な使用条件下で点検・整備の項目は下表の通りです。

点検・整備の項目	点 検 ・ 整 備 時 間				
	作業時	25時間毎	50時間毎	100時間毎	参照ページ
●エンジンオイルの点検と補給	○				
●ボルト、ナットの点検	○				
●クロスセンタ刃受の				○	
●レバー類の作動と点検	○				
●ベルトの点検と調整		○			
●エンジンオイルの交換		○	○		
●ミシヨンオイルの交換		○		○	
●ストレーナの掃除		○			
●エアリーナの掃除	○				
●作動部への注油及グリスアップ	○				
●点火プラグの調節と交換			○		

注：1) エンジンオイル交換は、初回のみ25時間運転後におこなってください。

# 11 長期間使用しないときの格納のしかた

## 11-1 格納のしかた

★長時間運転しないときや長時間保存する場合は次のお手入れをおこなってください。

- ① 本機の清掃・洗浄・注油 (図39)  
泥、ゴミ、塵、などは水洗し、水洗後はよく水分を拭き取り各回転部、摺り動部にたっぶりと油を差してください。

### ② オイル交換

オイル交換は作業が終わって、潤滑油の暖かい内におこないますと大変楽ですし、又きれいに排油することができます。

### ③ ガソリンの抜き取り (図40)

- (1) 燃料タンク内のガソリン抜き取り
  - ホースバンドをゆるめ、燃料コック側のホースを外して (別容器に燃料) を受けてください。
- (2) キャブレター内の燃料抜き取り
  - キャブレターのドレンプラグを引いて燃料を容器に受けてください。  
完全にガソリンが抜けたら元にもどしてください。
- (3) 燃料コック内のガソリン抜き取り
  - 燃料コックのカップをゆるめ、容器に受けてください。完全にガソリンが抜けたら元にもどしてください。

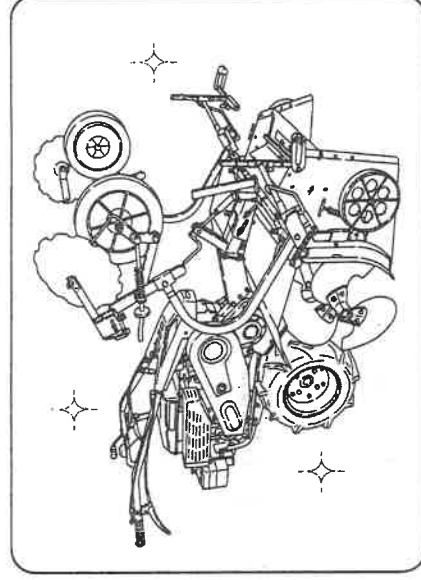


図39

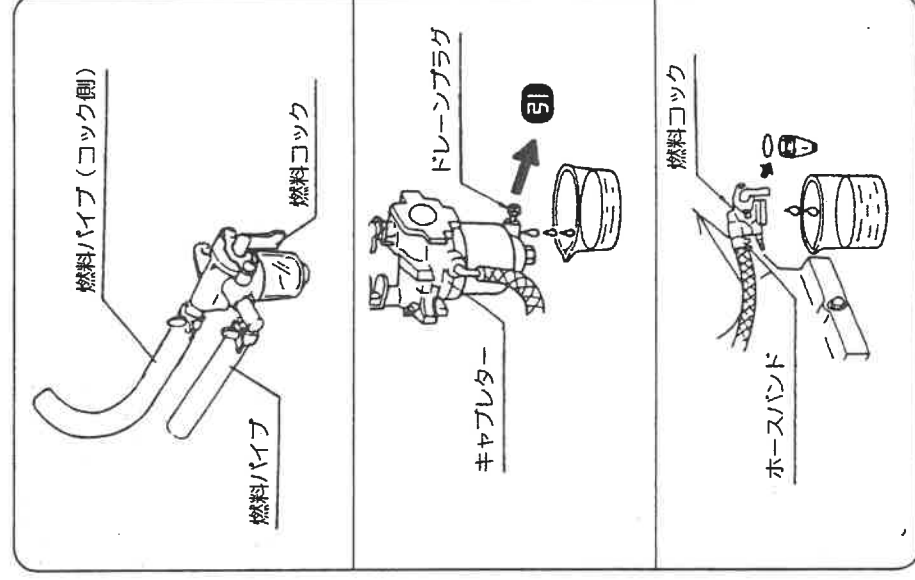


図40



注意

★燃料を抜くときは火気厳禁、風通しのよい所でおこなってください。抜いたガソリンは安全な所に保管してください。




# 12 不具合と対策方法



## 注意

- ★エンジンの整備には、特別な工具やエンジンの専門工場でないときけないものがあります。
- ★使用者が整備できる項目とその対策のみを示しておきます。

不具合内容	対策内容				
	<p>1. スロットルレバーの確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● スロットルレバーを「S」(中間)位置にしてください。</li> </ul> <p>2. 燃料の確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 燃料が充分に入っているかどうか確認してください。</li> </ul> <p>3. 燃料コックを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 燃料コックを「開」にしてください。</li> </ul> <p>4. チョークレバーを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● チョークレバーの操作は寒いときは「閉」にしてください。始動後は徐々に「開」にしてください。暖まったエンジンを再始動する場合はチョークレバーを「開」又は「半開」にしてください。</li> </ul> <p>5. 点火プラグを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● チョークを引きすぎたり、長時間機体を前方に倒したままにしますと、プラグが湿りがちとなりますので、プラグを外して掃除してください。なおプラグの隙間は0.6~0.7mm (ハガキ2枚分)標準です。</li> </ul> <p>プラグの掃除はプラグの溝の中を細い針金等でカーボンを落とすことが必要です。</p>				
エンジン始動不良	<div style="text-align: center;">  <p>電極間隙0.6~0.7</p> </div> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>メーカー名</td> <td>NGK</td> </tr> <tr> <td>品番</td> <td>BP5ES</td> </tr> </table>	メーカー名	NGK	品番	BP5ES
メーカー名	NGK				
品番	BP5ES				

## 12 不具合と対策方法

不具合内容	対策内容
エンジンの始動不良	<b>6. エアクリーナ点検</b> ※マン式オイルバス ● OIL LEVELの線までオイルが入っているか点検します。 ● 次に油が汚れていたら新品オイルと交換し、軽油で洗浄します。
	<b>7. リコイルスタータの目詰まり点検</b> ● リコイルスタータの吸気口にワラや草等が詰まりますとオーバーヒート気味になりますので掃除をしてください。
	<b>8. エンジンオイルの点検</b> ● エンジンオイルは規定量入っていますか。エンジンオイルが汚れていると各部の摩耗を早めます。傾斜地等で使用の際はオイルが少ないと焼付を起こしますので、オイルの補給をしてください。エンジンを水平にしてオイル注油口キャップをネジ込みます。差込んで点検してください。
	<b>9. 耕耘軸部の点検</b> ● 草やワラ等の多い所で作業の際は各種ローターに巻付き余分な馬力が必要としたり、また作業性能も悪くなりますので掃除をしてください。エンジンは必ず停止して作業してください。

上記の対策をしてもトラブルが直らないときは、販売店にご相談ください。

# 13 仕様

型式	SRV302	
全長	1590~1640 mm	
全幅	610 mm	
全高	770~1165 mm	
重量	118 kg	
主クラッチ	ベルトテンション式	
繰行装置	サイドクラッチ付	
サイドクラッチ方式	ドック式	
変速段数	F2. R2	
速度	低速	0.88 km/h
	高速	2.20 km/h
	後進 1 速	0.66 km/h
	後進 2 速	2.05 km/h
ロータリー方式	センタードライブ	
ロータリー変速	3段	
回転数	低速	187 rpm
	中速	310 rpm
	高速	517 rpm
作業機と作業内容 ( オプション部品を含む )	ドラムローターによる中耕除草。耕耘刃受による耕耘。溝掘刃受による溝掘。らせん犁による培土。デスクローターによるベット作り。マルチ作業。	
型式	GM301LN - 352	
標記出力	7.5 / 1800 ps/rpm	
最大出力	10.0 / 2000 ps/rpm	
排気量	296 cc	
タンク容量	5.4 ℓ	
潤滑油量	1.2 ℓ	
エアクリーナ	マントイプオイルバス式	
点火プラグ	BP5ES (NGK) 又は相当品	
重量	27 kg	

# 14 付属工具明細表

コード番号	品名	個数	備考
M26 1111 000	シャジクピン	1	
9RP 1023 000	Rピン	1	
M40 0502 000	ドラムセットボルト	1	
9NL 1000 003	ロックナット M10	1	
M40 4411 000	ボックススパナー	1	13×17
M40 4412 000	ボックスレンチ 17	1	
M81 4985 000	本機取扱説明書	1	
9TL 1701 900	スパナー 17×19	1	
FA2 1297 000	ソケットレンチ	1	
KN13001AA	スクリュードライバー	1	
	エンジン取扱説明書	1	
111 1530 001	工具袋	1	

# 15 消耗部品一覧表

コード番号	品名	1台当個数	備考
9VB 0450 003	Vベルト LB-45吋	2	
90S 3562 1914	オイルシール(車軸部)	2	
90S 3055 1710	オイルシール(ロータリー部)	2	
M81 4816 000	テンションワイヤー	1	
M81 4954 000	サイドクランチワイヤー	2	
M81 4955 000	スロットルワイヤー	1	
其他ゴム製品			



# MMT 農機株式会社

本社	工場	〒363-0017	埼玉県桶川市西2丁目9の37	☎048(771)1181(代)	☎048(771)1529
秋田	工場	〒018-0134	秋田県にかほ市象潟町西中野沢字家ノ下2の3	☎0184(43)4160(代)	☎0184(43)4120
東北	営業所	〒018-0134	秋田県にかほ市象潟町西中野沢字家ノ下2の3	☎0184(43)4160(代)	☎0184(43)4120
山形	営業所	〒994-0012	山形県天童市久野本3920の1	☎0236(54)0681	☎0236(54)7387
福島	営業所	〒960-0102	福島県福島市鎌田字一里塚1の1	☎024(553)0885	☎024(553)6768
新潟	営業所	〒940-1104	新潟県長岡市埴田屋町字崩2617	☎0258(23)1329	☎0258(23)1354
長野	営業所	〒388-8006	長野県長野市篠ノ井御幣川496の6	☎026(293)4888	☎026(292)0815
茨城	営業所	〒310-0853	茨城県水戸市平須町新山1828	☎029(241)3751~2	☎029(241)3752
栃木	営業所	☎322-0026	栃木県鹿沼市茂呂645の4	☎0289(76)0187	☎0289(76)0069
群馬	営業所	☎379-2105	群馬県前橋市東大室町183	☎027(268)3119	☎027(268)3862
中部	S	〒501-6233	岐阜県羽島市竹鼻町飯柄370の1	☎058(393)0041	☎058(391)3014
マMT	四国機器	〒790-0047	愛媛県松山市余戸南1の23の18	☎089(973)2325	☎089(971)2563

お客様メモ

購入日	平成	年	月	日
購入店名				